



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成26年10月28日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社システナ

コード番号 2317 URL <http://www.systema.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 逸見 愛親

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 甲斐 隆文

TEL 03-6367-3840

四半期報告書提出予定日 平成26年11月6日

配当支払開始予定日

平成26年12月2日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	16,978	11.0	1,041	77.0	1,089	73.8	829	157.0
26年3月期第2四半期	15,298	△1.0	588	△46.8	627	△43.6	322	△46.2

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 820百万円 (154.5%) 26年3月期第2四半期 322百万円 (△44.4%)

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	32.60	—	—	—
26年3月期第2四半期	12.31	—	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
27年3月期第2四半期	19,587	517.95	13,424	517.95	67.1	517.95	517.95	
26年3月期	20,255	502.00	13,139	502.00	63.4	502.00	502.00	

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 13,146百万円 26年3月期 12,848百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
26年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
27年3月期	—	15.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年 3月期の連結業績予想(平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	35,000	3.0	2,200	32.9	2,217	27.0	1,369	△23.8	53.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	28,180,000 株	26年3月期	28,180,000 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	2,797,900 株	26年3月期	2,586,200 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	25,445,645 株	26年3月期2Q	26,216,912 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11
4. 補足情報	12
(1) 生産実績	12
(2) 受注状況	12
(3) 販売実績	13

※当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催いたします。説明会で配布する資料は説明会開催後速やかに当社ホームページにて掲載する予定です。

・平成26年11月17日(月)・・・機関投資家・アナリスト向け会社説明会

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで。以下、「当第2四半期」という。)におけるわが国経済は、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動減がみられたものの、個人消費、設備投資ともに底堅く、緩やかながらも回復基調で推移しました。

このような環境の中で当社グループは、当連結会計年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)をビジネスモデルの再構築の期と位置付け、ハードからソフトへの質の転換と安定した経営体質への変革を強力に推進しております。

陳腐化したビジネスモデルを一新し、サービスを絡めたソリューション営業と、付加価値の高いITマネジメントビジネス、成長著しいスマホアプリ、自動車関連市場やセキュリティ分野への経営資源の再配置ならびにビジネスモデルの転換を図った結果、新規顧客の増加と収益力の向上により、売上、利益ともに好調に推移しました。

以上の結果、当第2四半期の連結業績は、売上高16,978百万円(前年同期比11.0%増)、営業利益1,041百万円(同77.0%増)、経常利益1,089百万円(同73.8%増)、四半期純利益829百万円(同157.0%増)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。なお、各セグメントの売上高にはセグメント間の内部売上高または振替高を含めております。

①ソリューションデザイン事業

ソリューションデザイン事業は、当期から「サービスソリューション事業」と「クオリティデザイン事業」に区分しており、当事業の売上高は5,455百万円(前年同期比15.3%増)、営業利益は449百万円(同48.7%増)となりました。

なお、当事業の前年同期比は、前年同期に報告セグメントとしておりました「プロダクトソリューション事業」と「サービスソリューション事業」を合算し、「ソリューションデザイン事業」に報告セグメントを組替えただけで算定しております。

(サービスソリューション事業)

各種ソフトウェアやサービスの開発を行う当事業は、国内端末メーカーのシェアが低下する厳しい状況の中で、開発リソースの成長分野へのシフトを推進しました。

これにより、通信キャリアにおけるインターネットサービスをはじめ、インターネットを利用したサービス、ゲーム、証券、教育、社会インフラといった分野で好調に受注を増やし、売上を伸ばしました。

また、組込み系分野については、当社のモバイル端末開発の豊富なノウハウと実績が評価され、情報家電やホームセキュリティ、車載関連の引き合いが増えております。

当社独自開発商品に関しても、スマートフォン向け不正送金・フィッシング詐欺対策アプリ「Web Shelter」が、インターネットバンキングの不正送金被害の急増に対するセキュリティ意識の高まりから、多くの金融機関で採用が決まり、利益率の向上に貢献しております。

これらの結果、当事業の売上高は3,546百万円、営業利益は325百万円となりました。

(クオリティデザイン事業)

各種製品やソフトウェア開発のプロジェクト管理・企画・仕様定義・品質管理に携わる当事業は、スマートデバイスやWebサービスの分野で培った豊富なノウハウと実績を活かして、公共系、サービス系、システム系、ネットワーク系、ロボット系および決済系の分野へと展開しております。

これにより、モバイル検証以外の分野の売上が大幅に伸び、当事業の売上の60%を占めるまでに拡大しました。

また、得意とするモバイル検証の分野では、国内だけでなく北米を中心に海外へと展開し、国内通信キャリアとメーカーの海外進出支援として、試験計画・設計のコンサル業務から商品性・ユーザビリティ評価の実施まで幅広い範囲で引き合いが増えております。

これらの結果、当事業の売上高は1,909百万円、営業利益は123百万円となりました。

②フレームワークデザイン事業

当事業は、四半世紀以上にわたり培ってきた金融機関向けシステム開発のノウハウや実績を基に、より広範囲な業種に向けてサービスの提供を行うことを目的として、平成26年10月1日付で「金融・基盤システム事業」から「フレームワークデザイン事業」へ名称変更し、収益機会の拡大を図っております。

当第2四半期においては、既存顧客内の他システム構築案件への横展開や、システム更改等の他社領域の巻き取りを中心に受注を増やし、売上を伸ばしました。こうした案件の受注はさらに伸びており、下期から複数の大型案件がスタートしております。

また、ソリューション営業本部と連携した受注活動を強化しており、広範囲な業種における新たなサービスの模索も進めております。

これらの結果、当事業の売上高は1,900百万円(前年同期比14.0%増)、営業利益は177百万円(同74.0%増)となりました。

③ITサービス事業

システムの運用・保守、ヘルプデスク・ユーザーサポートを主な業務とする当事業は、既存のお客様のIT戦略のパートナーとして業務範囲を拡大すると共に、新規開拓にも積極的に取り組み、全社のリソースをフルに使った「ALLシステナ体制」での「1クライアント複数サービス」の提案営業を展開しました。

例えば、ソリューション営業本部の豊富な顧客に対するITサービス全般の提案活動に継続的に取り組む中で、クライアントPCのリプレース対応などのスポット案件や、社内システムサポートの長期継続案件など、新規受注が増加し、取引の拡大につながりました。

事業拡大に伴う人材の拡充に関しても、社員の採用活動が順調に推移し、計画を上回る増員を実現しております。

これらの結果、当事業の売上高は2,412百万円(前年同期比10.5%増)、営業利益は139百万円(同64.0%増)となりました。

④ソリューション営業

IT関連商品の法人向け販売および外資・中堅企業向けを中心としたシステムインテグレーションを主な業務とする当事業は、製造系企業を中心に回復基調にある中、営業力の強化とインフラ構築を中心としたソリューションメニューの拡充、更には部門間の連携拡大に取り組みました。

こうした中、システム開発部門やITサービス部門との連携も進み、機器販売からインフラ構築、システム開発、保守運用に至るワンストップサービス案件が増加したことにより、売上を拡大することができました。

また、新規顧客の開拓も進み、顧客基盤が一層強化されたことにより、今後のサービス売上の拡大も見込める状況になっております。

これらの結果、当事業の売上高は6,903百万円(前年同期比6.5%増)、営業利益は244百万円(同189.6%増)となりました。

⑤クラウド事業

企業等にクラウドソリューションを提供する当事業は、主力取扱商品「Google Apps」と組み合わせて提供する「cloudstep(*)」シリーズの拡充が奏功し引き合いが拡大しました。特にグループウェアの刷新を目的に「Google Apps」を検討する企業が増える中、新サービスの投入やサービス強化が競合他社との差別化に一層拍車をかけ、数多くの新規案件獲得とともに既存契約の更新も順調に進みました。

前年同期には、新規顧客の大型の初期導入や今期から他部門に移管したOpneCube事業の売上があったこと、また当第2四半期において営業力強化投資を行ったことにより、当事業の売上高は225百万円(前年同期比7.5%減)、営業利益は22百万円(同33.5%減)となりました。

(*)「cloudstep」とは、「Google Apps」や「Microsoft Office 365」などのクラウドサービスをより使いやすく、より安全にご利用いただくために、業務アプリケーションや運用者向けの管理ツールをシステナ独自のソリューションとして展開するサービス群です。

⑥コンシューマサービス事業

当事業は、主に連結子会社の株式会社GaYaが行う事業が該当します。

株式会社GaYaは、スマートフォン向けゲームコンテンツを開発し、SNSゲームを展開する大手SNSサイトへ提供しております。

当第2四半期においては、自社タイトルの内容拡充、他社タイトルの運営の巻き取りおよび他プラットフォームへの横展開を実施し、取引の拡大を進めたことにより、黒字基調が定着しました。

これらの結果、当事業の売上高は130百万円(前年同期比228.4%増)、営業利益は27百万円(前年同期は営業損失21百万円)となりました。

⑦海外事業

Systema (THAILAND) Co., Ltd. は、スマートフォン向けモバイルアプリサービスとしてバンコク版レストラン検索アプリ『バングル』のサービスを6月から開始し、既に17,000件を超えるアプリダウンロード数に応じて日系・非日系のレストランからの掲載申込も順調に推移しており、下期からサービス課金を開始しております。今後はユーザーがコメントや写真を投稿できる等、サービス機能の拡充を図ってまいります。

一方、国内大手通信キャリアの米国通信キャリア買収に伴う技術支援と大手日本メーカーの米国市場進出に伴うローカライズ開発・検証支援を目的に、本年1月に営業を開始したSystema America Inc. は、設立当初に既に受注を見込んでいた大手通信キャリアとメーカーからの受注に加え、複数の通信キャリアとメーカーからの受注と引き合いを頂いており、現地での採用を拡大し体制を強化しております。

今後も現地雇用と拠点設立の促進等、積極的な投資を続け、米国ビジネスをスピーディに推進してまいります。

これらの結果、当事業の売上高は29百万円(前年同期は売上高計上なし)、営業損失は28百万円(前年同期は営業損失10百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は19,587百万円(前期末は20,255百万円)となり、前期末と比較して667百万円の減少となりました。流動資産は14,892百万円(前期末は15,207百万円)となり、前期末と比較して314百万円の減少となりました。これは主に受取手形及び売掛金769百万円の減少、現金及び預金122百万円の増加、商品72百万円の増加によるものであります。固定資産は4,694百万円(前期末は5,047百万円)となり、前期末と比較して353百万円の減少となりました。有形固定資産は383百万円(前期末は389百万円)となり、前期末と比較して6百万円の減少となりました。無形固定資産は183百万円(前期末は311百万円)となり、前期末と比較して128百万円の減少となりました。投資その他の資産は4,128百万円(前期末は4,346百万円)となり、前期末と比較して218百万円の減少となりました。これは主に繰延税金資産164百万円の減少によるものであります。

(負債)

負債の合計は6,163百万円(前期末は7,115百万円)となり、前期末と比較して952百万円の減少となりました。これは主に買掛金662百万円の減少、短期借入金653百万円の減少、未払金及び未払費用137百万円の増加によるものであります。

(純資産)

純資産は13,424百万円(前期末は13,139百万円)となり、前期末と比較して284百万円の増加となりました。自己資本比率につきましては、前期末と比較して3.7ポイント上昇し67.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期累計期間は好調な業績となりましたが、通期の業績予想につきましては、システナブランドの知名度向上による、営業強化と採用強化を目的に、下期においてテレビCM放映による広告宣伝費の増加を見込んでいることから、平成26年5月8日に発表いたしました、平成27年3月期の連結業績予想に修正はありません。

今後、業績予想の修正が生じる場合は速やかにお知らせいたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,235	5,358
受取手形及び売掛金	8,465	7,696
商品	808	880
仕掛品	6	10
繰延税金資産	705	709
その他	331	583
貸倒引当金	△345	△345
流動資産合計	15,207	14,892
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	148	167
工具、器具及び備品(純額)	168	153
土地	25	30
その他(純額)	46	31
有形固定資産合計	389	383
無形固定資産		
のれん	251	125
ソフトウェア	51	55
その他	8	2
無形固定資産合計	311	183
投資その他の資産		
投資有価証券	710	647
敷金及び保証金	607	615
繰延税金資産	3,023	2,859
その他	5	6
投資その他の資産合計	4,346	4,128
固定資産合計	5,047	4,694
資産合計	20,255	19,587

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,090	2,427
短期借入金	1,912	1,259
1年内返済予定の長期借入金	1	1
未払金及び未払費用	988	1,126
未払法人税等	28	152
賞与引当金	689	660
その他	314	447
流動負債合計	7,025	6,075
固定負債		
長期借入金	1	1
その他	88	86
固定負債合計	90	87
負債合計	7,115	6,163
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,513	1,513
資本剰余金	5,397	5,397
利益剰余金	7,721	8,166
自己株式	△1,807	△1,958
株主資本合計	12,824	13,118
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12	15
為替換算調整勘定	10	12
その他の包括利益累計額合計	23	27
少数株主持分	291	277
純資産合計	13,139	13,424
負債純資産合計	20,255	19,587

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	15,298	16,978
売上原価	12,525	13,858
売上総利益	2,772	3,120
販売費及び一般管理費	2,184	2,079
営業利益	588	1,041
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	3	3
受取賃料	122	—
為替差益	3	30
持分法による投資利益	—	11
その他	9	9
営業外収益合計	139	55
営業外費用		
支払利息	5	5
貸貸費用	85	—
持分法による投資損失	1	—
その他	8	0
営業外費用合計	101	6
経常利益	627	1,089
特別利益		
投資有価証券売却益	5	18
償却債権取立益	7	—
負ののれん発生益	6	—
特別利益合計	19	18
特別損失		
固定資産除却損	3	0
事務所移転費用	—	8
減損損失	—	22
特別損失合計	3	30
税金等調整前四半期純利益	642	1,077
法人税、住民税及び事業税	11	102
過年度法人税等戻入額	△4	—
法人税等調整額	324	158
法人税等合計	331	261
少数株主損益調整前四半期純利益	311	815
少数株主損失(△)	△11	△13
四半期純利益	322	829

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	311	815
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	2
為替換算調整勘定	△0	3
持分法適用会社に対する持分相当額	4	△1
その他の包括利益合計	10	4
四半期包括利益	322	820
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	333	833
少数株主に係る四半期包括利益	△11	△13

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	642	1,077
減価償却費	98	77
減損損失	—	22
のれん償却額	136	125
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△237	△29
受取利息及び受取配当金	△3	△3
支払利息	5	5
売上債権の増減額(△は増加)	846	768
たな卸資産の増減額(△は増加)	3	△75
仕入債務の増減額(△は減少)	△126	△660
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△31	59
その他	△36	95
小計	1,297	1,463
利息及び配当金の受取額	3	5
利息の支払額	△5	△5
法人税等の支払額	△33	△22
法人税等の還付額	32	1
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,293	1,442
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	△0	△0
有形及び無形固定資産の取得による支出	△100	△102
投資有価証券の取得による支出	△151	△394
投資有価証券の売却による収入	191	586
子会社株式の取得による支出	△29	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	7	—
差入保証金の差入による支出	△8	△42
差入保証金の回収による収入	0	34
その他の支出	△6	△17
その他の収入	40	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△56	64
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△0	△653
長期借入金の返済による支出	△35	△0
自己株式の取得による支出	△536	△151
配当金の支払額	△398	△383
その他の支出	△16	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△986	△1,196
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	31
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	257	342
現金及び現金同等物の期首残高	3,872	5,135
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,129	5,477

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成26年5月8日開催の取締役会における自己株式(普通株式)の取得決議に基づき、東京証券取引所における市場買付により自己株式を211,700株取得し、自己株式が151百万円増加いたしました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ソリューション デザイン事業	金融・基盤 システム事業	ITサービス 事業	ソリューション 営業	クラウド事業	コンシューマサ ービス事業	海外事業	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
売上高									
外部顧客への 売上高	4,724	1,666	2,164	6,479	243	19	—	—	15,298
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	5	—	17	4	0	20	—	△48	—
計	4,729	1,666	2,182	6,483	243	39	—	△48	15,298
セグメント利益 又は損失(△)	302	102	85	84	33	△21	△10	12	588

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額12百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ソリューション デザイン事業	金融・基盤 システム事業	ITサービス 事業	ソリューション 営業	クラウド事業	コンシューマサ ービス事業	海外事業	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
売上高									
外部顧客への 売上高	5,451	1,900	2,385	6,897	224	119	0	—	16,978
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	4	—	26	5	1	10	29	△78	—
計	5,455	1,900	2,412	6,903	225	130	29	△78	16,978
セグメント利益 又は損失(△)	449	177	139	244	22	27	△28	7	1,041

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額7百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第2四半期連結累計期間に報告セグメントとしておりました「プロダクトソリューション事業」と「サービスソリューション事業」は、平成25年12月1日付の組織変更により「ソリューションデザイン事業」に統合したため、報告セグメントの区分方法を変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分方法により作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が低いため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

自己株式の取得について

当社は、平成26年10月28日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議しました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

株主の皆様への一層の利益還元と経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため。

(2) 取得に係る事項の内容

- | | |
|--------------|--|
| ① 取得対象株式の種類 | 当社普通株式 |
| ② 取得し得る株式の総数 | 500,000株(上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 1.97%) |
| ③ 株式の取得価額の総額 | 400百万円(上限) |
| ④ 取得期間 | 平成26年10月29日～平成27年3月31日 |

4. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第2四半期連結累計期間のセグメント別生産実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
ソリューションデザイン事業	4,150	118.5
金融・基盤システム事業	1,445	116.6
ITサービス事業	1,855	110.4
合計	7,451	116.0

- (注) 1. 当社グループ内において、サービスの性格上受注生産活動を伴うセグメントのみ示しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 上記の金額は、製造原価で記載しております。
 4. 平成25年12月1日付の組織変更により、「プロダクトソリューション事業」と「サービスソリューション事業」を統合し、「ソリューションデザイン事業」に報告セグメントの区分方法を変更しており、前年同四半期比については変更後の報告セグメントに組替えたうえで算定しております。

(2) 受注状況

a. 受注高

当第2四半期連結累計期間のセグメント別受注高は次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)
ソリューションデザイン事業	5,681	124.7
金融・基盤システム事業	2,137	104.5
ITサービス事業	2,662	116.1
合計	10,481	117.8

- (注) 1. 当社グループ内において、サービスの性格上受注生産活動を伴うセグメントのみ示しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 平成25年12月1日付の組織変更により、「プロダクトソリューション事業」と「サービスソリューション事業」を統合し、「ソリューションデザイン事業」に報告セグメントの区分方法を変更しており、前年同四半期比については変更後の報告セグメントに組替えたうえで算定しております。

b. 受注残高

当第2四半期連結累計期間のセグメント別受注残高は次のとおりであります。

セグメントの名称	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
ソリューションデザイン事業	2,162	96.6
金融・基盤システム事業	1,397	108.5
ITサービス事業	2,794	111.8
合計	6,354	105.5

- (注) 1. 当社グループ内において、サービスの性格上受注生産活動を伴うセグメントのみ示しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 平成25年12月1日付の組織変更により、「プロダクトソリューション事業」と「サービスソリューション事業」を統合し、「ソリューションデザイン事業」に報告セグメントの区分方法を変更しており、前年同四半期比については変更後の報告セグメントに組替えたうえで算定しております。

(3) 販売実績

当第2四半期連結累計期間のセグメント別販売実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
ソリューションデザイン事業	5,451	115.4
金融・基盤システム事業	1,900	114.0
ITサービス事業	2,385	110.2
ソリューション営業	6,897	106.4
クラウド事業	224	92.3
コンシューマサービス事業	119	615.9
海外事業	0	—
合計	16,978	111.0

(注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 平成25年12月1日付の組織変更により、「プロダクトソリューション事業」と「サービスソリューション事業」を統合し、「ソリューションデザイン事業」に報告セグメントの区分方法を変更しており、前年同四半期比については変更後の報告セグメントに組替えたうえで算定しております。